

学生と教職員を結ぶ Momonoki-Portal の運用について

星野 修平

群馬県立県民健康科学大学・大学院

syuhei@gchs.ac.jp

概要：大学内で学生と教職員における情報伝達、情報共有を目的とし、学内 ICT 活性化のために、学生と教職員向けのコミュニケーション・システム『Momonoki-Portal』を構築し、2011 年 4 月から仮運用を開始した。従来の掲示板にかわる機能を中心に、一斉メールによる情報伝達を組み合わせた仮運用に対して行った利用状況調査では、教職員、学生ともに利用率が低く、運用方法、情報伝達方法の見直しが必要であった。

キーワード：情報メディア利用環境、情報共有、コミュニケーション・システム

1 はじめに

群馬県立県民健康科学大学は、2005 年に看護学部、診療放射線学部の 2 学部からなる大学として開学し、2009 年に大学院看護学研究科、診療放射線学研究科を加えた医療系大学である。その前身は 1952 年に設立された群馬県立看護学院（保健師養成）にはじまり、1958 年県立診療エックス線技師養成所、1970 年県立福祉大学校（放射線学科、保健婦学科、保育学科）、1993 年県立医療短期大学（看護学科、診療放射線学科）と、時代の要請とともに改組を経て現在に到る。^{[1][2]}

現在の学生定員は 482 名（看護学部 80 名 × 4 学年、診療放射線学部 35 名 × 4 学年、看護学研究科修士課程 8 名 × 2 学年、診療放射線学研究科修士課程 3 名 × 2 学年）で、教職員数は 97 名（学長 1 名、看護学部 52 名、診療放射線学部 24 名、事務職員 20 名、嘱託職員含まず）で構成される。

学内の Information and Communications Technology (ICT) 環境は、学習・研究支援としての学術情報ネットワーク、PC 教室（マルチメディア教室：46 台 + 47 台、2 部屋）、学生ラウンジ（PC10 台）で段階的に整備され、学生及び教職員間のコミュニケーション手段は、E-mail を中心に活用されている。その運用管理体制は専任教員からなる学術情報委員会情報システム部会が実働運用を担っているが、専任の専門職はおらず、講義等の合間に片手間で行っているのが現状である。

[3] [4] [5] [6] [7] [8]

2 学内 ICT 活性化

学内 ICT 活用の活性化の関しては、2010 年度に学長からのトップダウンで『土井プラン 2010』が策定され、その項目の一つに「学生・教職員間のコミュニケーションの充実」が掲げられた。（図 1）

土井プラン 2010—5つの取り組みー

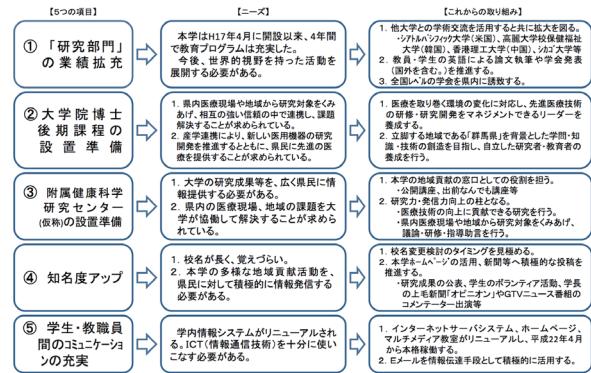


図 1 土井プラン 2010

特に学内情報システムのリニューアルに合わせ、ICT 活用の重要性に対し、教職員間の情報伝達を電子的に活性化する取り組みとして E-mail を情報伝達手段として積極的に活用することが掲げられた。それに対応して 2010 年度は、個別のメール送信に加え、学生を各学年毎のメーリングリストに束ねた一斉メールを設定し、積極的に E-mail を利用する機会を増やす活動を展開してきたが、学生が E-mail を利用可能な PC 環境は、学内でも限定され、利用率が低く利便性の課題が確認された。（表 1）

表1 学生のE-mail利用状況 (2010年度調査)

対象	大学PC	自宅PC	携帯電話	合計	利用率
看護学部					
1年生	82	18	4	12	34 41.5%
2年生	83	1	1	2	4 4.8%
3年生	82	2	0	0	2 2.4%
4年生	84	8	3	3	14 16.7%
小計	331	29	8	17	54 16.3%
看護学研究科					
1年生	8	1	3	0	4 50.0%
2年生	8	2	1	1	4 50.0%
小計	16	3	4	1	8 50.0%
診療放射線学部					
1年生	36	3	7	19	29 80.6%
2年生	36	7	2	1	10 27.8%
3年生	36	4	7	8	19 52.8%
4年生	35	4	2	1	7 20.0%
小計	143	18	18	29	65 45.5%
診療放射線学研究科					
1年生	3	1	1	0	2 66.7%
2年生	3	1	0	0	1 33.3%
小計	6	2	1	0	3 50.0%
合計	496	52	31	47	130 26.2%

3 Momonoki-Portalによる情報共有

学生教職員間の情報伝達は、事務局の設置した掲示板による紙媒体による運用が主であり、実習授業の多い3～4年生からは学外で利用可能な携帯電話やメールによる情報伝達を要望する声もあり、学内掲示板機能を電子的に行うためのポータルシステムとして、Momonoki-Portalを構築した。また学外からアクセスは、TSゲートウェイを介して、TS webアクセスにて、利用可能とした。(図2)



図2 Momonoki-Portalへのログイン

Momonoki-Portalシステムは、MS-SharePointServer2007の標準機能のみを利用し、トップページ、学生向けページ(学生の皆さんへ)、教職員向けページ(教職員の皆さんへ)の3つのページ構成とし、それぞれに、掲示板、大学スケ

ジュールなどを配置した。また、教職員向けのページは、教職員のみ利用可能とし、教職員間の情報共有ページとした。(図3)

- 【トップページ】
- 【学生の皆さん】
 - [学生掲示板]
 - [大学スケジュール]
 - [教員ページへのリンク]
 - [ドキュメント]
 - 「学術情報ネットワーク利用の手引き」
 - 「アンケート」
- 【教職員の皆さん】(教職員のみ利用可能)
 - [教職員向けのお知らせ]
 - [教職員用予定表]
 - [共有ドキュメント]
 - 「共有ドキュメント」
 - 「大学規程集」
 - 「大学院規程集」
 - [共有画像]
 - 「共有画像ライブラリ」

図3 Momonoki-Portalのページ構成

4 Momonoki-Portalの運用

従来の掲示板運用からE-mailとポータルへの移行は、仮運用として下記の運用ルールを定め、教職員に通知した。

- [1. メール・ポータルへの移行について]
 - ① 2の情報区分に従い、掲示板からメール及びポータルへの移行を行う。
 - ② ただし、移行期間として3ヶ月程度置き、その間は掲示板との併用を行う。
 - ③ 教員が学生にメール連絡を行う場合、CCで事務担当係長及び事務担当者に連絡をする。
 - ④ 移行期間中、事務担当者は、教員より受け取ったメール内容を掲示板に掲示する。
 - ⑤ 移行期間中、ポータル情報は、情報発信者が掲示及びポータル掲載を行う。
 - ⑥ 3か月程度経過した後、学術情報委員会は学生及び教職員にアンケート調査を行い、その結果を受けて全面移行について検討を行う。
- [2. メール・ポータル情報の区分]
 - ① メール

業務名	情報発信元
休講情報	教員(CCに事務を含める)
講義時間変更	教員(CCに事務を含める)
講義室変更	教員(CCに事務を含める)
学生呼び出し	教員(CCに事務を含める)
学生自治会	教員(CCに事務を含める)
健康診断指導	事務担当者

② ポータル

業務名	情報発信元
講義に関するお知らせ	教員
履修登録関係	事務担当者
試験について	教員・事務担当者
試験日時連絡	事務担当者
奨学金(呼び出し)	事務担当者
学生相談のスケジュール周知	事務担当者

[3. メール・ポータルのフォーマット]

① メールタイトル

タイトルは、「公式メール(業務名)」の形式とする。

② メール内容

以下の形式とし、必要に応じて情報を加える。ただし、メールの場合、発信・受信できる情報量が限られることから必要最小限の項目を送信することとする。

業務名	送信に必要な項目
①休講情報	○月○日(曜日)時限、講義科目名、担当教員名、コメントある場合は記載
②講義時間変更	○月○日(曜日)時限→○月○日(曜日)時限、講義科目名、担当教員名、コメントある場合は記載
③講義室変更	○月○日(曜日)時限、講義科目名、担当教員名、A 講義室→B 講義室、コメントある場合は記載
④学生呼び出し	(学籍番号、学部、学年、氏名、呼び出し場所)に○日○時に来てください
⑤学生自治会	(学生自治会役員全員にメール)要件
⑥健康診断指導	学籍番号、学部、学年、氏名、呼び出し場所、要件

③ ポータル

フォーマットは定めず、自由形式とする。

5 Momonoki-Portal の利用状況

Momonoki-Portal の利用状況を把握するため、平成23年9月に、全学生および教職員を対象に利用状況アンケートを実施した結果、E-mail およびポータルの利用状況は下記のとおりとなった。(表2～7)

- ・対象者：学生(482名)
- ・回答方法：任意(無記名)
- ・調査期間：7月5日～12日
- ・回答数：69名(回答率14.3%)

表2 あなたは、Momonoki-Mail を利用していますか？

	回答数	%
1. 毎日利用している	6	8.7%
2. 1週間に一度位利用している。	42	60.9%
3. 1月に一度位利用している。	12	17.4%
4. 利用していない。	7	10.1%
5. その他	2	2.9%
	69	

表3 あなたは、Momonoki-Portal を確認していますか？

	回答数	%
1. 毎日確認している。	1	1.4%
2. 1週間に1度位確認している。	24	34.8%
3. 1月に一度位確認している。	21	30.4%
4. 利用していない。	23	33.3%
5. その他	0	0.0%
	69	

- ・対象者：教職員
- ・回答方法：任意(無記名)
- ・調査期間：7月5日～12日
- ・該当数：105名(看護学部53名、診療放射線学部24名、事務局28名)
- ・回答数：37名(回答率36.2%)

表4 あなたは、Momonoki-Mail を利用していますか？

	回答者	%
1. 每日利用している	12	31.6%
2. 1週間に一度位利用している。	3	7.9%
3. 1月に一度位利用している。	4	10.5%
4. 利用していない。	13	34.2%
5. その他	6	15.8%
	38	

表5 あなたは、Momonoki-Portal を確認していますか？

	回答数	%
1. 毎日確認している。	0	0.0%
2. 1週間に1度位確認している。	6	15.8%
3. 1月に1度位確認している。	7	18.4%
4. 利用していない。	20	52.6%
5. その他	3	7.9%
未記入	2	5.3%
	38	

表6 Momonoki-Mail を利用して、学生に連絡をしたことありますか？

	回答数	%
1. ある	12	35.3%
2. ない	22	64.7%
	34	

表7 Momonoki-Portal に学生への連絡事項を書いたことがありますか？

	回答数	%
1. ある	2	5.9%
2. ない	31	91.2%
未回答	1	2.9%
	34	

6まとめ

学内の教職員および学生間の情報伝達をICTを活用、促進する目的でE-mailの利用、Portalサーバによる掲示板機能の追加、学内および学外からアクセス可能な情報共有サービスとしてMomonoki-Portalを設定した。従来の紙運用の掲

示板から、ポータルサーバへの移行を想定し、学生への連絡事項を E-mail および Portal 掲示板に 2011 年 4 月から仮運用にて実施した。利用状況は非常に低く、従来の紙媒体での掲示板が依然として主要な情報伝達媒体として利用されていることから、本格移行は断念し、学生への情報提供サービスの拡張として、併用方式を行う事となった。

利用率の低迷の原因の大きな要因としては、学内での閲覧環境が少なく、PC 教室や学生ラウンジの PC 以外での利用が難しいこと。近年、スマートフォンや携帯電話の web ブラウザ等の性能が向上しているが、提供している Portal の画面構成が PC を目途としているため、利用しにくいこと。また、学外等外部からの利用の際には、セキュリティ確保のため、TSG 経由での接続となり、利用するに際にはユーザ名、パスワードを 2 回入力する必要がある、などの様々な要因が考えられる。

近年、学生は携帯電話やスマートフォンによるコミュニケーションを主体としており、PC による E-mail 利用や Web 閲覧が日常的に行われず、積極的に E-mail や Portal の確認を行うことは難しい。現在、学生ラウンジ、センターホールでは学生向け Wifi アクセスポイントを提供しており、PC 利用促進を実施し、利用環境拡大をはかり、かつ Portal サーバの利用環境の見直し等を実施し、情報活用環境の整備を再検討したい。

参考文献

- [1] 群馬県立福祉大学校記念誌、p1、群馬県立福祉大学校、1996. 3
- [2] 群馬県立医療短期大学閉学記念誌、p9-20、群馬県立医療短期大学、2009. 3
- [3] 「桃の木ネット」の構築、星野修平、p119-128、群馬県立医療短期大学紀要第 8 卷、2001. 3
- [4] 学術情報ネットワークの高速化と教育的利用について、星野修平 他、診療放射線学教育学会第 2 回学術集会抄録集、2008. 8
- [5] レイヤ 3 スイッチと VLAN によるセキュア・ネットワークの運用管理について、星野修平 他、日本診療放射線学教育学会第 3 回学術集会抄録集、4p、2009. 8
- [6] 旧 LL 教室からマルチメディア教室への移行について、日本診療放射線学教育学会第 4 回学術集会抄録集、p12、2010. 8
- [7] 学内情報ネットワークの更新及び運用管理と問題点、星野修平、平成 22 年度情報教育研究集会講演論文集、2010. 12
- [8] BootCamp を用いたデュアルブート (MacOSX・Windows7) 環境でのコンピュータ教室の整備について、星野修平、堀 謙太、齋藤享子、群馬県庁放射線技師会学術研究発表会論文集、2011. 3